

## 《在鳴門》2011年12月 第75期

### 1、 中国語講座

鳴門で、私は4つの中国語講座を行っています。毎週木曜日午後に入門講座と初級講座を各一回、夜間に実践講座を各一回行っています。また、月に一回ボランティアガイド向けの中国語講座を行っています。参加者は、20代の若者から40代の中年層、60代の年配者の方々までです。講座はすべて日本語で、テキストをもとに、毎回1時間行っています。講座中、私は常に自分の見聞を交えて、できるだけ生々しい内容になるように頑張っています。講座は言語の勉強だけではなく、日中文化の交流が大切だと思います。多数の受講者たちは中国に行ったことがなく、少数の方は貿易関係で中国に行ったことがあります。皆さんに、中国主に青島市の経済と社会の事情を紹介したり、受講者たちの中国社会にかかわる質問などについて説明します。講座を通じて、受講者たちとだんだんお互いのことを理解し、多くの方は中国の歴史や中国人の名字や中国の歌に興味深いことがよく分かりました。少数の方が中国の最も古い文化の「易経」をよくご存知だったことは意外でした。講座中、私は常々日本語と中国語の単語や文字や言葉の異同について比較して、皆さんの講座の印象を深めるように努めています。同時に、自分の理解が正しいかどうかをテストできました。皆さんがあっと驚いたり、びっくりしたりする反応を見ると、とても嬉しかったです。

年末最終回の講座について、受講者の皆さんは茶話会の形で行い提案しました。会場で、皆、私にプレゼントを用意してくださったことは意外でした。また、一人ずつ私に感謝の気持ちを伝えてくださいました。ある方は事前に行った中国語の手紙を読んでくださいました。中国語は上手だというわけではありませんでしたが、敬意と好意を真摯に表していました。私は深く感動しました。ある方は一枚の中国歌の歌詞を持ってきました。その歌は昔の台湾の女性歌手の歌です。皆さんの熱意により、2011年最後の中国語講座は歌会に変わりました。事前にコピーしなかったため、私は歌詞を黒板に書いて、皆さんに教えました。最後、拍手しながら、皆で「2012年、またお会いしましょう」と言い別れました。

### 2、 小学校訪問



先日、鳴門市内の二ヶ所の小学校に招聘され訪問しました。それは撫養小学校と林崎小学校でした。いずれも、1クラスに生徒が30～40名程度で、授業は国語、算数、体育、音楽、道徳、科学等、一人の先生が全科を担うということです。一日中、担任の教師は終始、生徒たちと一緒にいます。それに対して、中国では小学校でもほとんど中学校と同じように専科教師が各科目を教えます。

撫養小学校では、バザー即売会という行事を催していました。私が所属の組は5名の五年生です。皆の夢は何ですかと聞いたら、二人の男の子の答えは野球選手と先生であり、二人女の子は女優と先生と答えました。あと一人の女の子はまだ考えていないと言いました。生徒たちの名字の中には珍しいものもあります。(ある読んだ本によると、日本には名字が29万もあり、世界中で一番名字が多い国で、そして、中には難解な名字もありますが、珍しいことではありません)校内の体育館の中には種々のゲームコーナーがあり、バスケットボールや、ボーリング、一番おもしろくて難しかったのはコマです。鍋島という名前の女子生徒は熱心に幾度も教えてくれましたが、私はなかなか上手くできませんでした。コマ遊びは、4年生から練習し始めるそうで、集中力と協調力を養えて、生徒にとってとても良い遊びだと思います。体育館の傍で行われていた餅つきコーナーで、生徒たちは3人一組で、順番に体験していました。作ったばかりの美味しい餅を即時販売し、値段は100円です。体育館の廊下と運動場の辺りでは、多くのテントが並び、食べ物がたくさん売っていました。人気があったのは餅、揚げ物、わた飴でした。購買システムは買い物券を買って、買い物券で食べ物をもらうというものです。生徒たちはそれぞれ自分の小さい財布から小銭を出して、美味しい食べ物を買っていました。

林崎小学校では、5年生の2クラスの国際理解講座を行いました。私と鳴門教育大学のフィリピン出身の先生はゲストとして参加しました。各国の文化を生徒たちに紹介しました。私はドキュメントを作りました。内容は、三部に分け、始めは中国の風景、主として青島を、次は青島の小学校を紹介して、最後は中国料理の紹介でした。万里の長城、天安門、青島オリンピック帆船センター、海水浴場、栈橋、ビール遊園地、青島嘉峪関小学校、及び今年開通したばかりの海上大橋と海底トンネル、なお中国の料理と伝統祭りの写真を沢山収集しました。学生たちは、中国風の揚げパンを見たとき、「あー、美味しそう！」と叫びました。青島の海上大橋の長さは数十キロだと聞くと、学校の先生はびっくりしていました。紹介した後、学生たちは興味がある問題を質問しました。たとえば、「中国の小学校ではどんな活動がありますか」、「中国の小学校では休み時間はどのくらいですか」、「日本の料理は何が好きですか」など聞かれました。次に、学生と一緒にゲームをしました。ゲームは三つあって、生徒たちはとても楽しんでいました。先生は傍で指導していました。

ゲーム1：全員が輪になって座り、司会者が大声である食べ物の名前を言ってから、(たとえば肉、納豆、鳥肉、餃子など)一つの食べ物を言ったら、好きな者は自分の席を外して、他の席に座ります。ゲーム中は、会場内で子供たちが行き来し、とてもにぎやかでした。

ゲーム2：全員が輪になって座り、音楽が流れている間、ボールを一人ずつ手渡します。司会者が音楽を止めた時に、ボールを持つ者は司会者の質問に答えます。たとえば、「What color do you like」、「What food do you like」、「What sport do you like」などでした。

ゲーム3：列をつくっていくというような遊びです。先ず、二人がジャンケンをして、負けた者が後ろにつき、勝った者はまたジャンケンをして列になってというのを繰り返します。このようにしてだんだん列が長くなり、最後は一行になります。

ゲームが終わると、学生たちは整列して敬礼をし、私たちにプレゼントを贈ってくれました。それは紙で作った中国の国旗で、裏面には子供たちが感謝の言葉を書いてくれており、花帯も飾ってありました。解散した時、ある生徒は「テレビ鳴門で張さんの中国語講座を見ました。」と話をかけてくれました。嬉しかったです。

### 3、国際交流員研修



2011年11月28～30日、日本全国の国際交流員は東京湾辺りの千葉幕張海浜で二日間の中間研修をしました。28日の朝、私は徳島阿波おどり空港を発ち、東京羽田空港に赴きました。機内で今年一緒に来た美馬市の国際交流員と再会しました。その後、一緒にバスで研修会場へ行きました。午後12時半、東京幕張ベイホテルに着きました。午後、初めは研修开幕式と主題講演を行いました。

29日と30日、次々に「翻訳と通訳」、「ビジネス電話」、「ビジネスメール」及び「国際文化理解と交流」などの講座に参加しました。「翻訳と通訳」は、英語圏や中国語圏やドイツ語圏などを分けられました。中国語圏の参加員は50人程で、講師は東京で翻訳事務所を経営している翻訳専門家でした。印象が深いのは先生が日本にもう10数年間暮らして、日本語翻訳を長い間努めたが、日本の学者と比べてやはり距離があり、外国人はいかに頑張っても日本学者のレベルに達することは難しいと言いました。なぜならば、人間の頭は容器みたいで、母語と外国語はそれぞれ占める比率が逆比率の関係だから、いかに努力しても均衡になることは不可能だからです。正しい姿勢は、優れた母語を維持し、できるだけ外国語の語力を高めることだと、先生はそういうふうに言いました。

「ビジネス電話」、「ビジネスメール」講座の会場の人数が最も多かったです。数百人は大会場にいました。先生は中年の女性であり、研修経験がとても豊富で、言葉が面白かったです。交流員たちは絶えず質問をしました。先生も時々皆さんに質問をしました。この講座は交流員にとって、とても役立つ講座だと思います。収穫が多かったです。

研修中の現場の係員はアメリカの交流員でした。講座中、多くの欧米の交流員は質問をしたり、質問をされたりしました。皆、流暢な日本語を話していました。欧米人でも日本語がこんなに上手なのかと驚きましたが、中国に活躍しているカナダ人の漫才師「大山」の上手な中国落語を聞けばおかしくありません。天才とは勤勉の者のみになれることができます。

研修期間中、2回のパーティーに参加しました。はじめは、28日の夜、交流員の晩餐会でした。場所は研修ホテルの大会場で、欧米とアジア各国の交流員たちが集まって、自由に言葉を交わし、とても賑やかでした。翌日29日の夜、中国交流員同士パーティーが行われました。一軒の中華料理レストランで行い、窓のガラスから海辺が眺められました。灯りと車の流れを眺望しながら、皆さん、歓声と笑いが絶えず、気持ちが高揚しており、二次会のカラオケへ行こうと提案しました。少数の者は三次会も行いました。それは皆理解できました。今回の出会いは皆さんにとって簡単な出会いではなく、大事にすべきだとよく分かりました。研修は、まだ1日ありましたが、皆、離れを惜しむ気持ちを感じました。

短かった二日間の研修は瞬く間に終わりましたが、本当に忘れられない経験でした。

#### 4、青島交響楽団(青島交響楽団のホームページから転載)



青島交響楽団は、青島市役所の協力で、2005年4月に成立され、団員は80名です。著名な指揮者

の張国勇先生と朱暉先生は、前後で、楽団コンサルタント、音楽総監督、芸術指導を担いました。ヴァイオリン演奏家の劉玉霞は、楽団の首席を担任しています。団員はすべて中国と海外の音楽学院などを卒業した優秀な者たちです。楽団の事務所と練習、出演場所は広さが1.8ヘクタールの青島市人民会堂です。楽団は、設立以来5年間に、世界的に有名な作曲家の数百部の交響作品を公演し、中国内外の様々な優秀な指揮者とすばらしい共演をしました。

青島交響楽団は、「伝承、発展、革新」を楽団の精神にかかげ、プロフェッショナルを目指します。楽団は、2回連続して中国国際バイオリン大会と、第八、九全中国バイオリン大会の協奏を担当しました。中国 CCTV(中央テレビ)はよく青島で青島交響楽団コンサートを撮影し、ミュージック番組に放送します。楽団は、今まで北京国家大劇場で三回の公演をしました。2006年5月、楽団は中国の東北地方に“楽動黒土地—青島交響楽団東北行”巡演活動で大成功しました。青島市の対外文化の「名刺」として、楽団から派遣した「四重奏組」、「八重奏組」は前後で、フランスとロシアで公演し、中国文化部と海外の観衆に好評され、ロシア文化省で「傑出貢献賞」を受けました。2007年10月、韓国統営国際音楽祭り委員会に招聘され、全員は韓国へ行き開幕式に公演し、その後、巡演を行って好評を得ました。11月、精いっぱい造り出した音楽ブランド「楽動江南」には、上海、杭州、寧波、紹興、南京、合肥等地方へ巡演しました。2008年7月、楽団は「楽動オリンピック—北京、上海、香港巡演」活動を行い、楽団の初著作権所有のアメリカ作曲家フリ・ロナによりオリンピック帆船大会のために作った交響楽曲「オリンピックセーリング組曲」を発表しました。これはオリンピック史上、初めのセーリング交響組曲です。2009年1月、楽団は、アメリカのカーネギー音楽ホール、ケネディ芸術センター、ハーバード大学などに演出し、好評を得ました。2009年4月、台湾で高雄交響楽団と共に演出し、文化交流を深めました。2009年7月、「大西北に愛の絆」鄭州と蘭州に巡演では大成功となりました。2010年6月、「楽動万博会」全国巡演を大成功させました。